

令和7年度 学校自己評価システムシート (県立大宮商業高等学校 定時制課程)

目指す学校像	地域とともに未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒を育成する
--------	--------------------------------

重点目標	1 授業改善により、生徒の主体性を育み、学習習慣の確立と学力を定着させる 2 キャリア教育の充実により、生徒の進路意識を高め、進路実現を支援する 3 地域・保護者・外部団体との連携強化と教育活動の効果的な情報発信により、愛され信頼される学校をつくる 4 コミュニケーション能力の育成により、チャレンジ精神に溢れたたくましい人材をつくる
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	11名

学校自己評価							
年度目標				年度評価(1月20日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<現状> ○少人数のため、対話的な授業展開により、学びやすい環境にある。 ○主体的に学ぶことができる生徒は少ない。 ○資格取得について、生徒、保護者、学校関係者からの要望は高い。 <課題> ○「主体的・対話的で深い学び」となる授業実践の工夫が必要である。 ○義務教育段階で不登校を経験している生徒が多いため、基礎学力の定着、検定試験合格率向上の具体策が必要である。 ○生徒がより意欲的に学ぶためにICTの活用などより一層取り組む必要がある。	○生徒に「主体的に学ぶ方法」を学習させ、基礎学力を定着させる。 ○資格取得を推進する。	①ICTの活用や教材等の創意工夫により、生徒の学習への興味・関心を積極的に引き出す。 ②生徒が成功体験を積み重ねることができ、かつ、主体的に参加することができるような授業を展開する。 ①検定に向けた補習を実施する。	①欠点保有率が昨年度と比較し減少したか。 ②アンケートにおける授業満足度指数が昨年度と比較し上昇したか。 ①検定試験の受験状況。 ①上位級の合格状況。	①2学期末での欠点保有率は、令和6年度と比較して減少した。(令和6年度は18.6%、令和7年度は13.3%) ②授業満足度は、令和6年度と比較し上昇した。(令和6年度90.1%、令和7年度93.1%) ①今年度より全商ビジネス計算実務検定の受験を開始した。検定受験の機会が広がった。 ①全商簿記総合1級2名、科目合格1名、2級7名、全経簿記検定1級科目合格1名等に合格するなど上位級への合格を果たした。	A	今年度以上に生徒が主体的に授業に参加できる体制を整えることが課題である。 今年度は資格取得に積極的に取り組むことができた。普通科、商業科問わず、取得可能な検定試験を、生徒自らが積極的にチャレンジするような意識付けを、職員全体で行うことに努めていく。
2	<現状> ○昨年度は、進路活動を通して、希望者全員の進路実現ができた。 ○外部の人的資源を効果的に活用した進路行事が充実している。 <課題> ○進学者向けの行事が少ないため、多様な進路に一部対応できていない。 ○昨年度に比べ減少しているが、生徒の希望職種と求人にもスマッチが生じている。	○生徒が自主的、主体的に進路活動を行い、進路実現できるようにする。 ○就活ノート(仮)を活用し、就職希望者のスケジュールの管理を徹底する。 ○生徒の希望職種と求人のスマッチを解消する取組をする。	①入学してから4年間を見通した進路行事、LHRにより、生徒の進路意識を高め、自主的、主体的な進路活動につなげる。 ①就活ノートを導入し、就職者のスケジュール並びに担任の業務の低減を図る。 ①学校外部の人的資源を有効的に活用し、企業研究を取り入れ、スマッチをしないような取組を実施する。	①各種の進路行事を通して、進路意識が向上したか。 ①進学者向けの行事が実施できたか。 ①就活ノートを導入し、就職者のスケジュールの管理、担任の業務の効率化が図られたか。 ①ハローワーク、外部業者、就職支援アドバイザーの有効活用により、新しい進路行事ができたか。	①各種の進路行事を通じて、進路意識が大幅に向上した。 ①進学者向けの行事を実施し、指定校推薦の獲得、資格奨学生制度の活用を行った。 ①就職希望者に対して「就活ノート」を導入し、スケジュール管理を徹底した結果、企業見学が一人平均3社となった。 ①パス見学会の受け入れ企業を変えるなど行事の見直しを行い大変好評であった。	A	次年度以降も各種の進路行事をより充実したものにする。就活ノート(キャリアパスポート)をより積極的に活用を計りたい。 合同企業説明会に積極的に参加できるように学校行事に組み入れるなど、企業連携をさらに深め、在学中の就労支援を充実させる。 また、メタバースによる企業研究の充実を図り、進路意識を向上させる。
3	<現状> ○志願者数が減少している。 ○学校見学者数や問い合わせは増加している。 <課題> ○本校志願者数を確保する必要がある。 ○行事の開催や地域行事への参加を行い、保護者や地域との連携を強固にする必要がある。	○定時制教育を理解を深めるため、学校見学者への個別対応を充実させる。 ○保護者や地域と連携する機会を増加する。	①志願者に対し、個別に学校説明や授業の見学などを行い、高校生活がイメージできるようにする。 ②学校説明会に積極的に参加する。 ③学校行事について定期的にホームページを更新する。 ①地域のイベントに積極的に参加する。また、学校行事に保護者がより多く参加できるようにする。	①学校見学者の人数が増加したか。 ②学校説明会に参加し、学校の概要が説明できたか。 ③ホームページのアクセス数が増加したか。 ①地域の行事への参加状況。 ①学校行事への保護者の参加状況。	①学校見学者18名。昨年度ほぼ同数。(昨年度17名) ②公立学校合同説明会、彩の国進学フェアに参加。中学生・保護者に説明を行った。 ③25年1月1日～12月31日までのアクティビティ参加者は6307人と増加した。昨年同期間は3734人であった。 ①夏季休業におけるボランティア活動参加人数は昨年度と変わらず。地域のボランティア活動(夏祭り運営の手伝い)若干名増加した。 ①来校者数は体育祭、予餞会共に増加。(前年度比20%増)	B	学校見学者、学校説明会では昨年並みの参加者であった。中学生の希望状況は状況は昨年と比べやや増加したがまだまだ本校希望者は少ない。本校の取組を中学生の理解してもらおうための努力を今後も継続していく。 H Pのアクセス数が増加した。引き続き定期的に更新し、学校の情報を公開していく。また、保護者等が行事等に参加しやすいよう取り組んでいく。
4	<現状> ○生徒は、概ね落ち着いた学校生活を送っている。 ○本校入学以前に不登校を経験した生徒が比較的多い。 ○長期欠席者はやや増加傾向。 ○立哨指導、日ごろの声かけ、HR活動を通じて生徒とのコミュニケーションを深めている。 <課題> ○長期欠席者への登校指導 ○多様化する生徒の悩みと相談しやすい体制の確立	○健康観察の強化と欠席の続く生徒の早期発見早期対応する。 ○SC、SSWとの連携と関係機関との連携、教職員のカウンセリングマインドの向上を図る。	①不定愁訴のある生徒の把握及びスプレッドシートを活用した欠席の続く生徒を把握(見える化)する。 ①SCやSSWの来校日数を増やし予防的カウンセリングや関係機関への橋渡しをする。	①SNS等の入力で健康観察等で欠席の続く生徒の把握(見える化)ができたか。養護教諭の巡回で生徒の心身の健康状態を早期発見することができたか。 ①保健室SC、SSWによる生徒相談を各毎月1回行えたか。関係機関への橋渡しができたか。	①SNS等を活用した健康観察のデジタル化と、養護教諭による校内巡回を組み合わせたことで、生徒の心身の細かなサインを多角的に、かつ早期に察知できる体制が整った。 ①SCやSSWによる相談業務の定例化に加え、研修を通じて職員との相談対応スキルが向上した。学校全体で生徒を支える組織的な支援基盤が強固になり、関係機関との連携も図れた。	A	今後はICTで得た健康観察データの蓄積・分析を進め、不調の兆をより早期かつ的確に把握する体制を強化をする。また、SCやSSWとの情報共有を一層円滑にし、複雑な事案への組織的な対応力を高めることが課題となる。研修の成果を日常の生徒対応に定着させ、早期発見後の「迅速な初期支援」と「予防的アプローチ」のさらなる充実を図る。

学校関係者評価	
実施日	令和8年2月5日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し基礎学力の定着を図ることは大切である。教員への研修を継続的に行ってほしい。今後様々なソフトなどの活用により学習効果を高めることが必要である。 ・自主的に学習に取り組むことはなかなか難しいことではあるが、グループワークや討論などを取り入れ生徒が自主的に学習に取り組むことは重要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・進学するなど進路も多様化しているようだ。進路に応じた指導をして欲しい。また、本校の進学、就職の進路実績を情報発信をすることは重要である。具体的な大学や企業とどのようにつながっているのか発信することも大切である。 ・様々な進路指導の取り組みが進路実現につながっている。目標を達成できたのは素晴らしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・企業や大学との連携などを情報提供し、卒業後の進路状況がわかるようにすることも効果的ではないか。 ・地域のお祭りに生徒に参加していただき大変ありがたかった。高校生が参加しお祭りも活気づいた。また、参加した生徒も喜んでいただくととてもよかった。引き続き地域と学校で連携していきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の長所などを把握したうえ、それを伸ばし更なる「やる気」を引き出すことをしていくのが良いと思う。 ・SC・SSWを活用し外部機関と連携をとっていくことは大切である。 	